

# 花だより

第114号 秋季刊



題字／落合廣子様  
森の家

2024年(令和6年) 11月10日発行

発行 社会福祉法人 恵比寿会  
フェローホームズ



仲間の家・森の家・高松の家  
フェローホームズデイサービスセンター  
フェローホームズヘルプサービス  
グループホーム・ヴィー・フェローホームズ  
フェローホームズアフタースクール  
森の子ナーサリー（企業主導型保育園）

042-523-7601

フェローホームズ富士見相談センター  
042-526-1353

羽衣地域福祉サービスセンター  
フェローホームズ羽衣相談センター  
立川市南部東はごろも地域包括支援センター

042-523-5612

森の子こども園  
しばさきのいえ子育てひろば

042-538-0729

042-512-7704

立川市柏第四学童保育所 042-537-8555

立川市高松第三学童保育所 042-512-9703

立川市砂川七番学童保育所 042-537-7550

立川市柴崎第二学童保育所 042-512-8202

「元氣な皆さんに

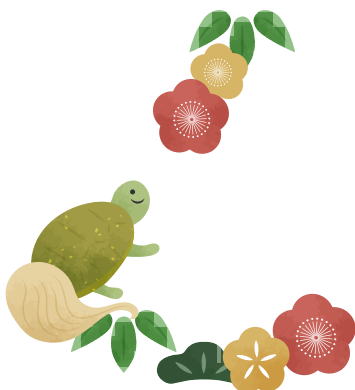
MVPを！」

フェローホームズデイサービスセンターは今年も敬老会を実施しました。ただ実施するだけでは、皆さんに特別な思いや日頃からの感謝を伝えきれないと思います、今年もより頑張った方々には表彰状の他に記念の盾を送りました。MVPはリハビリ・活動・生活総合部門と分けて、職員で選定いたしました。皆さんそれぞれ何かしらのMVPで一人に選ぶのはとても大変でした。本当は皆さんにお渡ししたい気持ちでした！

それでも選ばれた方の笑顔を見ると本当に計画して良かったです！と思います。またご利用者の声で、「また貰えるように、毎日デイに来ます」や「次は絶対に貰いたいからリハビリを頑張る」といった声も上がっており、ご利用者の生活意欲の向上に繋がっていると実感しています。

ふと全体写真を見ると、参加されたご利用者数が明らかに、昨年や一昨年よりも多くなっていました。皆さんが元気に今まで過ごしてこられた結果であり、新しい方にも楽しい場所として認識された結果だと思いま

す。その場を創り上げた職員の皆さんもMVPだと心から思います。



Facebookもチェック



<https://m.facebook.com/ebiskai/>





## 敬老会も インスタで発信！

### 羽衣地域福祉サービスセンター

残暑厳しい9月、今年も16日から5日間をかけて敬老のお祝いを行いました。

センター最高齢は108歳！今年は21名の方がお祝い年を迎えられ、記念の表彰状と写真を贈呈させていただきました。



ご夫婦揃ってお祝いできました



お祝い年の方へのインタビュー



敬老お祝い御膳大好評でした

あやめ三味線同好会の皆さんや、保育園の子供達もお祝いに駆けつけてくれて下さり、大変賑やかな敬老のお祝い週間となりました。



あやめ会の皆さんによる  
三味線演奏でお祝い！

羽衣地域福祉サービスセンター・デイサービスのインスタグラム開設しました！



HAGOROMO1998

hagoromo1998

## 10年目の開設記念日

### フェローホームズ高松の家

9月1日は「高松の家」10年目を迎える開設記念日でした。

当日は森山理事長、新課長にお越しいただき、高松の家職員総出で盛大にお祝いの会を開催しました。会の前座としてのレクリエーションはベトナム出身のダットさんが担当しました。ご入居者の前に立ち楽しく声を出して、体を動かして盛り上げていました。

お祝いの会では、ジュースや日本酒、ノンアルコールビールにリンゴジュースで作ったビールゼリーなど、お好みの飲み物を手にご入居者代表の方に音頭をとっていただき乾杯をしました。乾杯後は皆様小さいコップでは足りなかったようにビールなどのお飲み物をおかわりされる方々

に職員総出でお酌をしてまわる賑やかで笑顔あふれる会となりました。

10年の節目となりましたが、日々多くのことを学ばせていただいているご入居者の皆様、ご協力いただいているご家族の皆さまに感謝の念をより一層深くし、健康で豊かな生活を送っていただけるよう支援していくために、職員みんなで成長しながら、日々のケアにあたっていかなければと気が引き締まる思いとなった開設記念日でした。



## 敬老会

### フェローホームズ森の家

9月16日の敬老の日に、森の家敬老会を行いました。

今年はショートステイをご利用中の方も含め、14名の方が祝いの年を迎えられました。

祝い年の方々だけでなく、日頃元気に過ごしてくださっているご入居者の方へ感謝を込めて表彰状と記念の手ぬぐいをお渡しさせていただきました。



表彰状はユニット職員で皆さまがこの一年で特に頑張っていたことや、よく行われていたことを選び、賞として

表彰させていただきました。

表彰状と記念品を森山理事

長より手渡しで受け取られ、

大喜びで笑顔で受け取る方も

いらっしやれば、少し恥ずかし

そうに、はにかみながら受け

取られる方もいらっしやいました。

お昼には、豪華な祝い膳や

紅白まんじゅうと、お腹も心

も満足していただけたのでは

ないかと思えます。

来年もまたその次の年も、

敬老の日という節目に入居者

の皆さんをお祝いいただけるよう

また元気に迎えていただける

よう、寄り添い、支援してま

いります。



## 元気の源は食事から！

### 栄養科+デイサービス

デイサービスでは、今年度より食事により力を入れていきます。



色とりも美しいお出かけ御膳

普段の昼食では、味噌汁の出汁がとても効いていて、今までの何倍も美味しくなっています。また、丼物や麺類の日に限っては、出来る限り出来たてを提供できるように、デイフロアで麺を茹でたり盛り付けをしています。

行事食も再開いたしました。季節と特別感をより味わえる食事スタイルや、見た目からとても美味しそうで、実際にご利用者からはたくさんのご好評な意見が出ております。中

には見学の際に召し上がった昼食が美味しいからここを使いたいと、利用に繋がったケースもあります。

食事が良くなって、ご利用者の皆さんもお昼が待ち遠しくなっている様子が増えてきました。そして、実際に美味しいと素直に言って下さる方も多くなったと思います。ここまで食事が良くなったのは、栄養科の皆さんの頑張りのおかげです。ご利用者のニーズや想いに応えようと尽力して下さっています。これからも、栄養科の皆さんと一緒にご利用者の想いに応えられるように協力し美味しい昼食をご用意してお待ちしています。



季節感あふれるメニューに大満足



## 地域福祉アンテナ ショップご存知ですか

### はごろも地域包括支援センター

■地域福祉アンテナショップとは、地域の身近な空き部屋等のスペースを活用した場所です。気軽に相談や情報交換をしたり、サロンやコミュニティカフェを開いたりすることができ、地域住民がつながる「場」で、市内に複数あります。



「かふえ・しゃんてい」

羽衣町の「羽（はね）」、錦町の「錦（にしき）」から名づけられた「はねきんのいえ」は「はねきんネットの会」という団体によって運営

されています。

「傾聴クラブ」の定期開催や、編み物、オカリナ、健康麻雀などの活動に活用され、地域の方々の交流が行われています。

■認知症当事者の方だけでなく、ご家族や地域の方、なたでもお立ち寄りいただける認知症カフェ「かふえ・しゃんてい」を、地域福祉アンテナショップ「はねきんのいえ」で偶数月に開催しています。

この夏は地域の学生さんとのコラボで体操やミニゲーム、「懐メロを楽しむ会」などをおこない「懐かしい曲に合わせて身体も動かして、とっても楽しかった。」と大変好評でした。



はねきんのいえ外観

## 散歩に行きましょう！

### ヴィラ・グループホーム

グループホームでは、ご入

居者の日課として、天気の良い日は、外に散歩に出かけています。

この日も夏の暑さが落ち着いた過ごしやす

い日にご入居者の皆様と一緒にグ

ループホームの裏手に

ある花壇ま

で散歩に出かけました。

グループ

ホームでは

歌を歌うの

が好きな方

が多くいら

っしゃる

ので、散歩

の途中でベンチに座わり職員と一緒に懐かしの歌謡曲や唱



歌、童謡等を歌われたり、「1、2、3、4、!!」と元氣よく声を掛けながら楽しそうに体操をされていたりしました。

沢山つくっていきたいと思います。

ご入居者の皆様  
が笑顔で楽しんで  
頂けるように、こ  
れからも精一杯、努力させていただきます。



## アフタースクールと ヴィラGHのハロウィン交流会

10月28日（月）に、少し早めのハロウィン交流会を実施。今年の子どもたちの仮装のテーマは「海賊」です。船長とともに、ヴィラのご入居者に、練習してきた踊りを披露。沢山のお菓子をいただきました。



## もっと散歩に 行きましょう

### 機能訓練科+仲間の家

皆さんこんにちは。特養機能訓練指導員の作業療法士の吉田です。

特養3施設で実施している、生活リハビリプロトコルのステップ6（歩行）のご紹介になります。

歩くことは、歩行能力の維持に欠かせませんが、身体機



能面のみでなく、精神機能面でも、とても良い効果があることはご存じかと思います。

仲間の家の中庭には、素敵な草花があります。いつもは窓から見下ろすのですが、近くで見ると触れることもできます。脳が活性化し、楽しみや意欲の向上、気分転換になります！



天気の良い日には、散歩を取り入れています。ご利用者様が、笑顔で日々を過ごしていただければ、私たち職員も、嬉しく、励みになります。





# 第8回フェローホームズミニ秋祭り

11月2日（土）第8回フェローホームズミニ秋祭りが開催されました！

5年ぶりに再開された秋祭りですが、森の家・仲間の家・高松の家・ヴィラのご入居者ご家族だけを対象とした、ミニ秋祭りとして開催いたしました。

新たな企画として、ご入居者3名以上＋スタッフ3名以上（含む外国人スタッフ1名）で、3分以上の踊りを披露いただき賞品もするというコンテストを実施いたしました。賞金も賞品も出るとあって、4グループがエントリー。

お祭り前日まで、熱心に練習に励むチーム、衣装を新たにそろえるチーム、日頃の歌にあわせてハビリ体操をエントリするチームと、それぞれ工夫を凝らして本番に臨んでくれました。

当日は、あいにくの雨模様のため、外会場での披露は断念しましたが、各施設内で、ご家族や他のご入居者の前で、披露していただきました。



同日には、衣類販売会も実施とあり、100名以上のご家族が来園され、秋祭り用にと栄養料が用意した焼きそば・恵比寿焼きをご入居者と一緒に召し上がり、別売りの石焼いも・綿あめ・シフォンケーキも、あつという間に売り切れとなる速さで、お買い求めいただきました。

ご入居者もご家族も、そしてスタッフも久々の楽しい時間を過ごすことができました。来年は地域の皆様にもきていただけるような、フルサイズの秋祭りを開催したいものです。

※焼きそばの麺300食分は、後援会副会長の㈱ヤマ岡部直士様よりご寄贈いただきました。



## 森の子ナーサリー MORINOKO NURSERY

森の子ナーサリーでは、食への興味関心を育むことを目標に、様々な食育活動を取り入れています。今年も、きゅうりやトマト等の夏野菜をお子さんたちと一緒に栽培しました。

その中で、花が咲いたことや実が大きくなったこと等、気付いたことを教えてくれる姿が見られました。野菜を収穫できた時は、嬉しそうなお子さんたちでした。また、季節の食材を実際に目にしたり、触れたりする機会や、玉ねぎの皮むき、かぼちゃの種取り等、調理過程の一部を行う体験も積極的にを行っています。

毎日の食事は、国産素材を基本とし、安心で、美味しい和食中心の一汁三菜をいただいています。食べることは生きる源であり、健やかな心と身体の発達に欠かせないものです。

これからも、食べることを

楽しむ気持ちを育て、豊かな体験を積み重ねていけるよう、保育を行っています。



保育士

池

美月

HPはこちら



## しばさきのいえ

### 子育てひろば

しばさきの家子育てひろばは、戸建て住宅を使用した小さなひろばです。

生後間もない時期に初来所され、通い続けてくださる利用者が多くいらっしゃいます。子ども達は、子ども同士で月年齢関係なく各々が意識し合い、大人が教えなくても子ども同士のやり取りや関わり合いをひろばで自然に学んでいます。普段では見過ごしてしまいそうな小さな成長を見つめ、喜び合える場所こそが小さな子育てひろばの良さだと思います。

開所7年を迎えました。兄弟姉妹での来所も増え、地域に根付いている事を実感しています。ぜひ、遊びに来てください。



子育てひろば

指導員  
魚津明子

HPはこちら





# 森の子こども園

MORINOKO KODOMOEN

## すくわく プログラム

幼稚園や保育園、こども園に通うすべての乳幼児の「伸びる・育つ（すくすく）」と「好奇心・探求心（わくわく）」を応援するプログラムとして「とうきょうすくわくプログラム」の参加募集が始まりました。

森の子こども園では「たいせつにしたい3つの活動」を基に探究活動を通じて子どもの豊かな育ちを応援する取り組みの準備をしています。

森の子こども園はモンテッソーリ教育活動・自然体験活動・食育活動を「たいせつ」に日々事業運営を行っています。子どもたちの様子を観察していると、子ども自身が主体的に活動に取り組めているときは、ちよつと先の目的を達成したくて、一生懸命に「考え

たり」、「試したり」、「工夫したり」しています。この毎日の「わくわく」を積み重ねることによって子どもたちは「すくすく」と成長できるのではないかと考えています。

すくわくプログラムの説明会では、発達理論の代表であるピアジェとヴィゴツキーの理論についても紹介されていました。（ちなみにこの2人はどちらも学習理論に大きな影響を与えた学者で教育学の中で必ず出てくる人たちです。）2人の共通点は、「子どもたちは能動的に学習しており、主体的な役割を果たす」という見解を持つていることです。

モンテッソーリ教育を例に挙げると、子どもたちは、主体的に自己選択した「おしごと」に取り組む、それを毎日繰り返しています。そして、試行錯誤している問題解決過程のようなプロセスの部分を、先生たちが、

丁寧に読み取り、可視化するなどしつつ、子ども一人ひとりが何に気づき、何を思っているか丁寧に観察しています。その観察のプロセスの中で、先生たちは子どもたちに対して、必要とする対話や提示などを行っています。そして、それと同時に子ども同士の対話や協働も自発的に生まれています。そのような主体的かつ能動的な活動の中で、さらに探求が深まっていくような環境の再構成を明らかにする取り組みがこのすくわくプログラムではないかと考えています。

少しむつかしい内容ばかりになってしまいましたが、子どもたちが日常の生活を送る森の子こども園で心も身体も「すくすく」成長し、生涯にわたって「わくわく」探求できる心を育てていきたいと思っています。

森の子こども園

園長 森山貴子

HPIはこちら

